ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

遊駿 plus

協　　力：金沢ホースマンクラブ
協　　賛：金沢競馬振興協議会
発 行 者：遊駿プラス編集部

無料

ご自由にお持ちください

www.kanazawakeiba.com

インタビュー
百万石のスマイルで迎えるJBCイヤー
松戸政也騎手

2026年5月
vol. 60 ありがとう

※ご意見、ご感想をお寄せください
宛先 E-Mail：yushun.plus@gmail.com
http://sites.google.com/site/yushunplus/

Photo by miwa

ASK ME Anything なんでも聞いてよ

百万石のスマイルで迎える JBCイヤー

松戸政也騎手

一昨年絶対女王ハクサンアマゾネスが引退してから勝ち馬が変わり続ける群雄割拠の古馬重賞戦線。

一方で地元の二歳重賞を総なめにして二歳馬ながら年度代表馬に選ばれたエムティジークが君臨する三歳重賞戦線。

この対照的な二つの戦線に六歳のマリンデュンデュンと三歳のピカピカピロコで今年挑むのは松戸政也騎手。この二頭がどんな馬でどのように挑んで行くのか、お話を聞いてみた。

デュンをこう、評する。

一昨年の中日杯でハクサンアマゾネスに勝利する大金星を挙げて次の年の中心は彼が引っ張ると思われていたが、重賞は勝てなかった。

「マリンデュンデュンが主役の年にしたいと思っていましたけど、なかなか重賞に届かなくて。惜しい競馬をしてはいるけど」

重賞では掲示板には入るが勝ちきれないレースが続いた。それはハクサンアマゾネスに勝った事で一介の逃げ馬の扱いをされないようになった側面がある。

「一昨年は馬場（先行有利）という事もあったし。あと、対策もされていた事もあって。逃げ馬の脆い部分はあって、それが出たかな。それでも踏ん張っているのですけど」

マリンデュンデュンの逃げや早め先行が意識され、警戒されるようになった面が強そう。

それが現れたのが昨年末の金沢セレクトカップだった。ハクサンパイオニアの二番手でレースを進めて早め先頭に躍り出て押し切りを狙うも直線で差し馬に差されて五着。

「ファンセレクトはこれぐらいペース速くて最後まで持たないと勝てないかなってメンバーだったの。ギリギリを攻めたけど最後脚上がっちゃったかな」

そんな中で今年変わったと言われる金沢の馬場。先行有利の馬場から差し・追い込みが決まるようになった。急に変わったので馬も騎手も戸惑い、手探り状態だったと言う。

そんなマリンデュンデュンには絶対不利と言えそうな中での今年初戦はハクサンバードに二番手から早め先頭で三馬身差をつけて押し切った。

Photo by haruka　マリンデュンデュン

「早めに仕掛けたけど最後やっぱり脚が上がったけど何とかもった。逃げでも溜めながら乗らないといけない馬場」

マリンデュンデュンは中距離よりも短距離向きなのでは、と言われる事もあるが。

「本質的には短距離向いているかな。でも、中長距離も折り合いがついてマークされずに自分のペースで行けたらまだまだやれるかな」

馬は短距離向きだが、状況次第では中長距離でも走れる。これもなかなかに悩ましい所だ。

春は百万石賞が大目標。夏は弱いそうなので秋は短距離戦線を目指し、そして、大舞台ＪＢＣ金沢へ。クラシックよりもスプリントの方を目指していく流れになりそう。

初戦の勝利から重賞を三戦走るも精彩を欠いた走りが続いた。特に後半二戦は過去最高の馬体重だったので調整の難しい所が出たのが原因だったか。

ここから立て直して重賞の舞台にマリンデュンデュンが立つと、どのような走りを見せるか。

人気薄のこのコンビは怖い。予想の一考に加えておきたい。

そんなマリンデュンデュンと対照的なのが三歳のピカピカピロコ。

「素直でやんちゃだけどレースになると大人しく、ちゃんと反応してくれる」

いわゆる操縦性の高い馬と言うことか。そんな彼女は中央遠征後に冬季に大井で一戦走って金沢の開幕を迎える。そして、初戦の若駒賞で六番人気ながら絶対王者エムティジークをハナ差で差し切って見せた。

「六番人気で、あ、こんなのでいいんだなって。それで初対戦で年度代表馬のジークに勝てたのは嬉しかった」

松戸騎手の表情も綻ぶ。

このレースではマリンデュンデュンとは対照的に馬場の変更が彼女にプラスに作用した。

「他のレースに乗って脚を溜めないといけない馬場と感じた。人気もなかったし思い切った競馬ができた」

Photo by miwa　ピカピカピロコ

思い切った競馬ができたと言うが、道中後方三番手は想定外だったよう。

「中団の後ろか前がよかったけど思ったより周りが速かったので腹括っ、て後方から」

これが功を奏したか、三コーナー回ってからの手応えが違った。

「三コーナーまではふわふわする馬なので追い出してすぐに手応えはなかったりするけど、この日はずっと手応えあったのでこれはと思って追い出したらぐんと伸びて」

押し切りを図るエムティジークを交わせるかと思ったが相手はさすがの年度代表馬。

「交わせるなとは思ったけど、相手も地力があって。止まるかなと思ったら止まらず、ギリギリと言う感じ。ゴールした時はわからなかった」

大接戦の末の勝利。彼女は今年二戦目、一方今年の初戦で斤量も彼女より三キロ重いエムティジーク。彼女に恵まれた事が多かったと言えそうだが、ここで絶対王者に勝てた事は大きいと言えそう。

そんな彼女の次走は初めての重賞挑戦となったノトキリシマ賞。一番人気に推されるが彼女らしさが見られず後方ママで六着。

馬体重が前走マイナス十八キロで今回そこからプラス七キロ。前走の究極の仕上げの反動があったのか、再びの立て直しに注目したい。

そして最大目標は石川優駿の彼女。そうなると距離が伸びてどうなのか、が気になるところ。

「かかる馬ではないし、長くなってもイケる」

距離が伸びることに不安はないようだ。そして何よりも、

「砂が深くなったので去年までの高速馬場と違って、行った行ったじゃ残れない馬場。パワーがいるし、脚を溜めないとダメな競馬になった」

石川優駿の前哨戦、北日本新聞杯はそんな考えとは逆に前を行った三頭で決着し、ピロコは前とハナ差の五着で掲示板は確保した。

やはり前有利なのかと思ったが、翌週のお松の方賞では一転差し馬が上位を占めたので前一辺倒の馬場でないのは確か。

差し脚が自慢の彼女に合いそうな今年の馬場。エムティジーク一強から混戦模様になりつつあり、今後どう勢力図が変わるのか。石川優駿での松戸騎手の騎乗に注目だ。

昨年を振り返ると松戸騎手は少し複雑な表情を見せる。

「（マリンデュンデュンが）ハクサンアマゾネスを倒して世代交代、と思ったけどなかなか行かなくて悔しかった」

マリンデュンデュンで悔しい思いを味わいながらピカピカピロコで中央への挑戦ができた。

「初めてＪＲＡに挑戦してもらえたし。自分ではよかったなと思ったら、次の日落馬して怪我をしてしまって」

中央遠征の翌十二月一日に三頭が絡む落馬事故に巻き込まれて二週間レースから離れる事があった。

重賞に手が届かず悔しい思いをし、憧れの中央挑戦をした次の日にケガとまさに波乱万丈の一年。

「一年間ケガをしないでいくのが一番いいので。そこができなかったのは残念。残念な事が多かったですね」

重賞に手が届かなかった事よりも二週間の離脱の方が残念に思えるのは馬が大好きな松戸騎手らしい所。

そして今年。金沢でＪＢＣが行われる。これまで松戸騎手はＪＢＣにはクラシックに二〇二一年の金沢から二三年まで三年連続出走している。

「観客は多い方がいい。気持ちの乗り方が違う」

そう言う松戸騎手だが、金沢では観客が満員のＪＢＣは未経験。二〇二一年の金沢ＪＢＣはコロナ禍で観衆は抽選による入場制限が掛かっていたからだ。

地元での大観衆が入るＪＢＣに騎乗するのは初めての経験となる松戸騎手は期待に胸を膨らませる。

「ピロコでレディース、デュンデュンでスプリントかクラシック。もう一頭なんとか見つけて全部乗りたいなあ」

そんな欲張りな望みを笑いながら語るが、そんな機会も引き寄せそうな松戸スマイル。

「予想の為に全国の皆さんには秋に向けて金沢を中心に見ておいてください。見ているうちに馬券買ったり、好きな馬を見つけたりしながら応援してほしいですね」

楽しみな二〇二六年。秋までファンを、自分自身を楽しませてほしい。

ヘンシューチョーのつぶやき

長く楽しむ新たな「売り」を

冒頭から中央競馬の話で恐縮ではあるが、今年の天皇賞・春は見応えのあるレースだった。

二周目向こう正面出口から前を捕えて先頭に立って押し切る正に王者の競馬をするクロワデュワール、クロノをマークして直線を追うアドマイヤテラ、そして最後方からまとめて差し切りを図るヴェルテンベルク。

なにより三二〇〇ｍ走って着差は二センチと言う大接戦。長丁場での位置取りや駆け引きに三分超のレース中、片時も目が離せなかった。

しかし、これを見て同時に去年の金沢競馬のレースを思い出した。

北國王冠。現在存在するダートの重賞で日本最長距離の二六〇〇ｍ。全国交流のこのレースに全国のスタミナ自慢の馬に騎手も名手が揃った。

レースはクーアフュルスト、サクラトップキッド、ケイアイパープル、ヒーローコール、そして再びクーアフュルストと先頭が目まぐるしく変わり、落ち着きを知らぬ激流のような競馬。

最後の直線で横に広がった所を内からするすると最低人気のカイルが抜け出し、外からはずっと後方だったヴィアメントがまとめて差し切る。レース的にも配当的にも面白いレースとなり、ＳＮＳでも話題となっていた。

そんな長距離レースだが、全国的には縮小傾向と言える。中央では以前二三〇〇ｍの重賞があったが、現在は二〇〇〇ｍが最長でしかも一つだけ。地方でも笠松のオグリキャップ記念が二五〇〇ｍから一四〇〇ｍに短縮して復活したのも記憶に新しい所。

全国的にもレアなレースとなりつつあるダートの長距離。逆にこれを生かす手はないだろうか。

たとえば北國王冠を長距離王決定戦の形にして、二〇〇〇ｍ以上のレースを増やすことはできないだろうか。難しいとは思うが、今は使っていない二三〇〇ｍを使えるように整備するなどすれば、二〇〇〇ｍ超のレースを増やすことは出来るはず。

活躍の場が減る全国のダートのステイヤー達が集まるようにすれば馬の新たな魅力も生まれて注目も上がるだろう。

時代に逆行するかもしれないが、競馬の多様性を残すためにも金沢は長距離のレースに力を入れてほしいし、せめて北國王冠の二六〇〇ｍは残してほしいと願う。

同じ馬券を買うのなら、少しでも長く見ていた方がわくわく感を楽しめるだろう。

KRC NEWS

浅野騎手デビュー戦初勝利！

四月三日、第二レースで浅野登生（あさの　とい）騎手がデビューを果たした。

Photo by miwa

金沢での騎手デビューは二〇二三年の加藤翔馬騎手以来の三年振り。また加藤騎手と同じ石川県出身。

浅野騎手は自厩舎加藤和義厩舎のベルウッドブラボーに騎乗。スタートからハナに立つと向こう正面では大きなリードを取る。最後のコーナーから直線にかけてゴルティスが追い上げるも一馬身凌いでゴール。初騎乗初勝利となった。

初騎乗初勝利は一九九七年にデビューした堀場裕充現調教師以来二九年振りの快挙。

剣道一家で大会にも出場した事があると言う浅野騎手。

剣道で培ったであろう強い集中力と勝負勘で自厩舎の先輩、加藤翔馬騎手、そして吉原寛人騎手を目指してこれからの活躍を期待したい。

Photo by miwa

百万石賞への切符はシンリミテス

利家盃（百万石賞ＴＲ）

春の大一番百万石賞の優先出走権を賭けた一戦。

一番人気は石川優駿馬で昨年の百万石賞馬のナミダノキス、二番人気に昨年の中日杯を勝ったクーアフュルスト、そして三番人気に移籍後連勝中のシンリミテスが続く。

ゲートが開くとシンリミテスがハナを奪おうとするところを大外マリンデュンデュンが何が何でもとハナを主張して先頭。シンリミテスは二番手に控える形に。この二頭が三番手以下を離しての逃げの形でレースを引っ張り離れた三番手がクーアフュルスト、そして末脚に賭けるナミダノキスが後方三番手。縦長の展開でレースが進む。

二周目向こう正面でシンリミテスがマリンデュンデュンを交わして早めに先頭に。クーアフュルストも早めに動いて追いかけ、ナミダノキスも後方からポジションを上げる。

直線では上位人気馬三頭の争いに。逃げるシンリミテスをクーアフュルストが詰めるもその差はなかなか縮まらず、ナミダノキスが上がり最速の脚を繰り出すも二番手にも届かず。後続に一馬身をつけてシンリミテスが押し切った。

シンリミテスは初めての重賞制覇。鞍上の加藤翔馬騎手はＪＢＣイヤー記念に続いての今年重賞二勝目。

連れて逃げたシンリミテスと三番手のクーアフュルスト、後方からのナミダノキスと様々な決め手での上位三頭。軽視すると逃げ切りを許すマリンデュンデュン、最後確実に後方から飛んでくるダイヤモンドラインと、一筋縄ではいかない百万石賞となりそうだ。

Photo by haruka　シンリミテス

最初の一冠は女王に

北日本新聞杯（石川優駿ＴＲ）

三歳三冠の最初を飾る北日本新聞杯。断然の一番人気は昨年の年度代表馬エムティジーク・二番人気に中央移籍後連勝中のダンシングアウェイ。三番人気にノトキリシマ賞優勝馬のケーズコマクサが続く。

グリーゼ　Photo by miwa

レースが五番人気のグリーゼがハナを切る。エムティジークはグリーゼを見ながら二番手でレースを進める。ケーズコマクサは先行集団の一角を進み、ダンシングアウェイは最後方からの競馬。

グリーゼが快調に飛ばして先頭、二番手エムティジークに四番人気ドレドレが接近して終盤を迎える。

グリーゼの逃げは衰えるどころか逆に差を広げながら直線に入ると独走状態に。エムティジークが足を伸ばそうとするも縮まらない。三番手はドレドレにベラジオスパーク、ピカピカピロコの差し勢が迫る。

そのままグリーゼがエムティジークに六馬身差をつけて優勝。三着はドレドレが粘り、前を走った三頭で決着した。

グリーゼは重賞二着を三回味わっての嬉しい初重賞。鞍上の米倉知騎手は金沢スプリングカップに続いての重賞二勝目。

上位三頭に石川優駿の優先出走権が与えられた。この三頭は差しが決まると言われる新しい馬場でも、前目から残る競馬を見せて力のあることを示した。特にエムティジークは今年三戦全部二着と勝ちきれないがこのままでは終われない。

今年の石川優駿も目が離せない事になりそうだ。

グルメスポットにアジアと和の風

今年、金沢競馬場の軽食堂街に新たなお店が二軒お目見えした。

一つは「雷風飯店」。競馬場には珍しいシンガポール料理だ。シンガポールのソウルフード、「海南鶏飯（シンガポール・チキンライス）」が看板のこのお店、他にも月替わりでタイなどの本格的なアジアンフードが楽しめるとあって、オープン直後から競馬場飯の範疇を超えていると話題になっている。

もう一つは「大判焼　あんやと」。テイクアウト専門の大判焼きのお店で、メニューは中能登町産の古代米の入った大判焼の一点勝負。

美味しいつぶあんにもちもちの生地が相まって早くも評判となっている。片手で楽しめるスイーツは馬券の検討をする時の糖分補給にまさにうってつけ。競馬のお供にどうぞ。

金沢競馬場のグルメに吹く新たな風を感じてみては如何だろうか。